

麻生区区民会議審議・取組経過の報告

麻生区区民会議独自の制度・運営の工夫

公平性への配慮

委員構成を、団体推薦、公募、区長推薦各1 / 3に

透明性への配慮

審議すべき地域課題を、公募と委員全員からの提案を受けた審議により選定

実効性への配慮

企画部会と専門部会を設置

区民の主体性、公開性への配慮

「区民会議ニュース」の発行、タウン紙の活用、HPの充実、傍聴者アンケート、区民提案箱の設置等

協働性への配慮

制度づくりの段階から区民参加と、区役所との協働

課題(テーマ)の選定

課題の公募、委員からの提案

27の課題

27の課題と、その解決案に共通する「キーワード」を抽出

キーワード : 「住民間の繋がり」・「連帯・協働・交流」・「地域の力」の重要性。

キーワード : 「公共心」・「こころ(公衆道徳・マナー)」・「郷土意識」の醸成。

の実現には が欠かせぬ相互に表裏一体の関係

一つのテーマに集約

麻生区区民会議のテーマ

= 『心が響きあう地域づくり』

『心が響きあう地域づくり』
のための具体的な取組事例・切り口

【事例1】登下校時児童の見守り
～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～

【事例2】地元農産物を通じての地域のつながりづくり

専門部会設置(18年12月)

【事例3】高齢者支援を切り口とした地域のつながりづくり

専門部会設置(19年6月)

「こどもの見守り」に関する実践事例

1. 東柿生小学校区防犯パトロール隊

- ・小学校区地域の自発的・自主的ボランティアで構成された「勝手連」。
- ・パトロールの時間、コースなどは自由で腕章着用以外義務づけなし。
- ・日頃から学校の運動会等に招かれてており、児童・保護者の顔馴染み。
- ・地域住民と子どもとの「あいさつ」のやりとりは大切。

2. 岡上・片平地域

- ・PTA校外委員を中心にパトロール。町内会がパトロール隊を編成して協力。

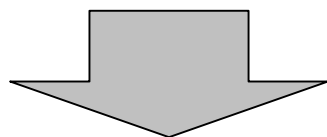
3. 西生田小区一部地域

- ・住民が自主的にわんわんパトロール、下校時見守り隊を立ち上げる。
- ・保護者・校外委員と常時情報交換。
- ・自治会は広報、経費などで支援。
- ・通学ルート沿いの住民有志は下校時玄関前で見守り。

『心が響きあう地域のつながり』

～地域のつながり『あいさつ』がはじまり～

かつて : 『結いの精神』



現在 : 『ご近所の底力』

麻生区区民会議、幾つかの課題

これまでの麻生区区民会議の検証から抽出される3つの課題

審議結果の地域での実践への結びつきは？

区民への浸透度合いは？

区民への説明は？

区民会議と各団体との連携は？

結果としての区民の参加は？

委員間の情報・認識共有は図られたか？

区民会議と、区及び参与との協働は？

「心が響きあう地域づくり」～「こどもの見守り」地域のつながり「あいさつ」がはじまり～ の取りまとめについて

「こどもの見守り」に関する実践事例及び課題解決に向けての具体的な手法など ～第2回区民会議での調査・審議から～

「見守り」実践事例など	ヒント・ノウハウなど	問題点など
1. 東柿生小学校区防犯パトロール隊		
<p>小学校区地域(町会を越えて)の自発的・自主的ボランティアで構成された「勝手連」。パトロールの時間、コースなどは自由で腕章着用以外義務づけなし。</p> <p>日頃から学校の運動会等に招かれており、児童・保護者に紹介されて顔馴染み。</p> <p>地域住民と子どもとの「あいさつ」のやりとりは大切。</p>	<p>地域住民のボランティア組織。</p> <p>決まりや義務ではない自由な活動。</p> <p>子どもとのあいさつの交換。</p> <p>学校との日頃の交流。</p> <p>子どもの考え・視点(感想・意見)の取り込み。</p>	
2. その他の「見守り」事例		
<p>岡上・片平等多くの地域でPTA校外委員を中心にパトロール。町内会がパトロール隊を編成して協力。</p> <p>西生田小区一部地域では、「東柿生」の事例同様に住民が自主的にわんわんパトロール、下校時見守り隊をは広報、経費などで支援。通学ルート沿いの住民有志は下校時玄関前で見守り。</p>	<p>大きな組織でなくても小さくて顔馴染みになれるご近所の「見守り隊」を沢山つくる。</p> <p>小さな波紋が広がり重なるように。</p> <p>街角の掃除など身近な機会に子ども連れで参加して絆づくりを。</p> <p>転入してきた方には、前から住んでいる人が進んで地域の情報を提供する。</p> <p>親が通勤時に町内では腕章をつけるなどして、当事者として主体的に行動することができる。</p> <p>学校側には余裕は少なく、校外問題に過度の依存は疑問。</p> <p>中原区では町内の中学生を「見守り」に巻き込んだ事例がある。</p>	<p>当事者であるはずの保護者間でも「見守り」に温度差。</p> <p>校外委員への負担。</p> <p>地域への親の依頼心。</p> <p>町内会など地域と保護者間での意思疎通、ニーズ・アイデアの把握。</p> <p>学校と地域との連携、役割分担明確化。</p>
<p>3. 副題:”地域のつながり「あいさつ」がはじまり”に関して</p> <p>～顔を合わせたら「あいさつ」を交わすことが防犯だけでなく地域づくりの根底となる～</p>	<p>家庭では親が率先して「あいさつ」を。親が子どもの見本。</p> <p>学校では教職員から「あいさつ」の率先、垂範を。</p>	<p>あいさつを防犯の視点だけでなく、親子の話し合いからはじめて、他人を思いやる心、公共心を育てることに広げたい。(傍聴者意見)</p>
	<p>家庭、町内、学校、集まり、どこでも、「あいさつ」は先ず自分から声をかけて。</p> <p>無視されても繰り返しが重要。</p>	<p>「あいさつ」をしないのは、子ども・若者ばかりではない。</p>
	<p>町内では、腕章・ベストをつけていると声が掛けやすく、また相手も返しやすい。</p> <p>腕章悪用に注意する。防止策として、地域で管理する仕組みをつくる必要がある。</p>	

「心が響きあう地域づくり」～こどもの見守り～に関する事例の区役所の取組状況について

第3回区民会議(平成18年12月22日開催)における提案内容			課題解決に向けた 区役所の取組状況について (平成19年3月現在)
取組方法	具体的な取組内容	取組事例	
1. 広報の活用	<p>市政だより、区民会議ニュース、区ホームページ、各団体機関紙、地域メディア、マスメディアなど各種媒体を活用する。</p> <p>各地域における実践事例などを収集・広報して、区全域での情報共有化を図る。</p> <p>事例、問題点、ヒントなどを取り組みやすいように具体的に楽しく、わかりやすく広報する。(文章だけではなくイラストなども使う)</p> <p>区民会議ニュースで特集を組むなど集中的、かつ継続的な広報が必要。</p> <p>区民の関心を高めるための手段として、ポスター作成、標語募集などがある。</p> <p>区民会議の課題を周知するため、懸垂幕を掲げる。</p> <p>外国人への広報を工夫する。</p>	<p>区民会議ニュース臨時特集号の発行</p> <p>地域メディア(タウン誌等)を活用(紙面買取等)した広報</p> <p>懸垂幕の製作</p>	<p>1 平成18年度における取組</p> <p>(1)区民会議の提案のうち、実現可能なものを「平成18年度協働推進事業費」を使用し実施する。 事業名 - 「心が響きあう地域づくり事業」 予算額 - 2,280,000円</p> <p>(2)事業内容 タウン誌(マイタウン21)を活用した地域の活動事例の紹介記事の掲載(3月1日号、4月1日号) 懸垂幕の製作 区民会議ニュース、チラシ、ポスター作成等に必要な物品の購入 課題提案箱の作製 地域活動用ベスト、腕章の購入</p>
2. 町内会・自治会など既存組織との連携	<p>各地域では当事者たる保護者が取り組みの主体であることを認識し、そのきっかけや環境作りに配慮する。</p> <p>保護者、子どものニーズや解決のアイデア、自主的行動を大事にする。</p> <p>町内会など地域組織・関係既存組織と保護者との意思疎通を図り、先進的な事例や取り組みのノウハウなどを参考にしつつ、地域の実態・ニーズに合った方法を検討する。</p> <p>行政・学校は、地域の実態・ニーズを把握して支援・協働する。</p> <p>元気なシニア世代(団塊の世代など)の活用。</p>	<p>腕章、ベスト、立て看板等の製作</p> <p>各地域で必要とする経費見積書を徴取したらどうか。</p> <p>区ではその経費を予備費として計上はできないか。</p>	<p>2 今後取組を進めていく事項</p> <p>(1)区民の関心を高めるための広報の継続</p> <p>(2)既存組織との連携に向けた仕組みづくり</p> <p>(3)シニア世代の地域社会への参加に係る仕組みづくりの検討</p> <p>(4)区民ニーズに即した支援のあり方、予算のあり方の検討</p>